

苦小牧風の会 登山21周年記念 北海道不動霊場巡礼の旅

ご 旅 程

5月29日(月)	羽田空港(8:30発予定)→(JAL505便)→新千歳空港—支笏湖(観光)—苦小牧(昼食、東蝦夷地開拓移住隊士の墓・勇武津資料館、千人同心の顕彰碑、ウトナイ湖等観光)—成田山望洋寺(北海道三十六不動霊場22番)—苦小牧・グランドホテルニュー王子(泊)
5月30日(火)	ホテル—成田山大照寺(34番)—野幌森林公園(北海道百年記念塔、北海道開拓の村等見学)—札幌市内(昼食・観光)—成田山新榮寺(36番)—札幌・東急REIホテル(泊) ※この日の夕食は自由夕食(各自払い)になります。
5月31日(水)	ホテル—無漏山不動院(30番)—成田山不動院(番外7番)—小樽市内(昼食、小樽運河、北一硝子等観光)—新千歳空港→(JAL505便)→羽田空港(18:40着予定)

- ◆期 日 平成29年5月29日(月)～平成29年5月31日(水) 2泊3日
- ◆参加費 御一人様 97,000円 【お部屋は2～3名1室(洋室)です。】
※1人部屋をご希望の方は追加料金8,000円を申し受けます。
- ◆定 員 30名(最小催行人数20名)
- ◆集合場所 羽田空港第1ターミナル 午前7時45分頃予定 (詳しい場所は結団式時にご案内します。)

【お申込みの方は、薬書に、必要事項をご記入の上、京王観光(株)八王子支店までご郵送ください。】

巡礼企画・主催

大本山 高尾山薬王院

「北海道不動霊場巡礼の旅」係 担当:堀江、杉山

〒193-8686 八王子市高尾町2177

TEL 042-661-1115 FAX 042-664-1199

お申込みは (旅行企画・実施) 【受注型企画旅行】

京王観光株式会社 八王子支店

担当:福島

〒192-0046 八王子市明神町3-26-10 土屋ビル3F

TEL 042-631-4721 FAX 042-631-8371

台風十号被災地復興支援金 岩泉町より御礼状が届く

昨年の九月に発生した、台風十号の被害による被災地復興の為、高尾山では、皆様から寄せられた募金を、東日本大震災の復興支援活動で御縁を頂いた、岩手県奥州市の興性寺の司東御住職を通じて、岩泉町へお届けさせて頂きました。後日岩泉町より、御礼状が届きましたので、ご紹介させて頂きます。

謹啓 寒冷の候、益々々清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、台風十号豪雨災害に際しまして、被災された皆様への支援品を提供いただき、誠にありがとうございました。ございました。

家や家財、衣料品などの多くの物を失った方々は、皆様からの御支援や御声援に勇気付けられ、大変感謝しているところでございます。

また、被災者の方々は、自宅を修理又は仮設住宅への入居など、今後の生活に向け、一步一步前進している所でございます。

これから益々寒さが厳しくなる時期となりますが、私も岩泉町といたしましても、職員一丸となって被災者の皆様が一日も早く平穏な生活を取り戻せるよう、また被災前の岩泉町の元気な姿を全国の皆様にお伝えできるよう、最善の努力を尽くしてまいります。

終わりに、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら本書を持って御礼とさせていただきます。

敬白

おはなし散歩道 鷹匠への道

湯沢町 富樫あいこ

冬の鷹狩りは武士の楽しみである。

武市は父が鷹を左腕にのせ、八王子の代官と狩りに行く勇壮な姿が大好きだった。父の峯吉は優れた鷹匠である。

武市は幼い頃から鷹狩を手伝い、将来父のようになると決めていた。絶食状態にした鷹が、鋭い目を見開き飛び立つ瞬間は胸が弾む。

母は武市が六歳のとき亡くなり父は後妻をもらった。まもなく弟の彦治が生まれた。父は「跡継ぎが二人もできた」と意気込んでいた。

人並みの鷹匠には育てようと、二人の子どもにもは大きいクマタカを飼って慣らさせた。クマタカは特殊な技を求められる。それにハヤブサなどより

大きいので、エサ代がかかる。武市は自分の食物がなくてもクマタカにはエサを与えつづけた。

武市が腕を磨き始めた頃、突然父が急逝した。十五歳の武市は一家を背負うことになった。それまでおとなしかった後妻が、急に武市につらく当たるようになった。

「未熟な技を磨くより畑仕事をしろ。食うものがないのに鷹のエサなんぞない」という。武市は夜遅くまで田畑を耕し帰って来ても家族との会話もない。夜は鷹匠の腕を磨くのみだった。

武市は父が口癖のように言っていたことを思い出していた。「鷹匠には鷹を大切に慈しむ愛と鷹をよく知り尽くす心だ」

これが鷹と人間との信頼だといった。武市にはよくわからないうが父が鷹を愛していた事はわかる。

武市は、とうとう家を出た。頼る人もいないまま鷹を肩にのせ、木枯らしが舞う甲州街道を歩いていた。

そこへ陣笠をかぶった鷹狩りの一行にであった。武市に馬上から声がかかった。

「どの鷹匠だ」武市は名のるような身ではないが、鷹匠峰吉の子どもだと名のった。侍は武市の姿を見て家臣を呼び、これから行く鷹狩りに同行するようにいった。武市の胸が高鳴る。

久々の鷹狩りにどのくらい働けるか不安であったが期待もあった。二行と山に入った武市は上手く行けばこの侍に雇ってもらえるかも知れない。鷹の働きを願っていた。

「行け！侍の合図に武市は鷹を放した。鷹は天を回り獲物をめがけて飛び立った。ほかの

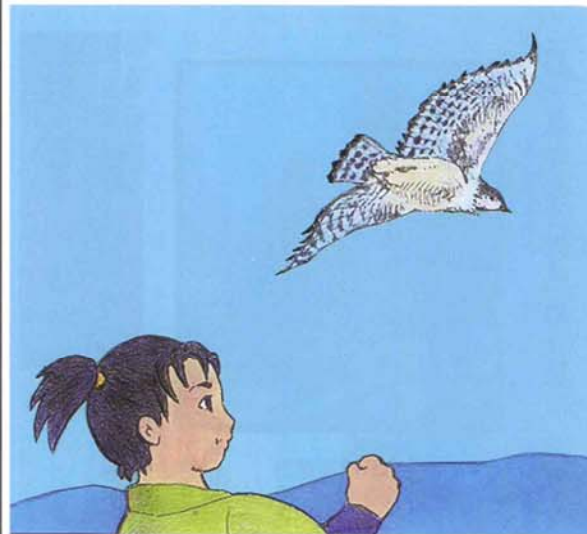
鷹はすでに獲物をくわえて戻ってくるのに、武市の鷹は戻らず見失ってしまった。

侍はあざ笑い帰っていった。武市は頭を抱えて甲州街道へ戻った。すると「あんちゃん！」振り向くと彦治だった。放した鷹が弟の肩のついていた。

武市は弟が自分の後を追いかけてきたことに胸

をいためた。悪かったと詫びる目に熱いものがあふれていた。武市は鷹匠になること事ばかり考えて、父が亡くなつてから家族が冷たいのは後妻のせいにしてきた。家族愛や信頼が無い人間に鷹を扱う資格はないと思いつつ、武市は初心に戻って出直すことにした。

(さし絵 小出 茂)



(さし絵 小出 茂)